

インドシナ難民コミュニティとその資源

——コミュニティ・メンバーの属性との関連で——

○東京外国語大学 長谷部美佳

1 目的

この報告の目的は、日本に在住しているインドシナ難民のエスニック・コミュニティの構成員の属性と、その提供する資源の関係性について考察することにある。分析の焦点は、コミュニティの成員の日本語力の高さと、日本との関係性の有無に当てられる。日本社会での生活を続ける上で、日本語力が低い場合、エスニック・コミュニティへの依存は高くなるが、日本語力がある程度確保されている場合、コミュニティとの関係／資源はどうなるのか。日本社会との関係性にも着目しながら考察する。

2 方法

データとしては、神奈川県内のインドシナ難民の集住地区で実施しているフィールドワークで得たものを使用する。今回の報告については、2015 年前後から集めたデータを基にしている。具体的には、エスニック・コミュニティによる活動への定期的な参加を通じた観察、あるいは集住地区で支援活動が続いている NGO への参加とエスニック・コミュニティの成員に対するインフォーマルな聞き取りなどがフィールドワークの内容である。最低月 1 回、多い場合は 2, 3 回観察が続けている。

3 結果

分析の結果、コミュニティの成員の日本語力が高い場合に着目して分類すると以下のことが言える。

日本語力が高く、日本人の配偶者がいる、あるいは日本社会との関係性が強い（友人や知り合いがいる）成員の場合は、エスニック・コミュニティに対する依存度は低い。コミュニティから積極的に得られる資源は少ないため、エスニック・コミュニティの負の側面を嫌って、エスニック・コミュニティから距離を取ろうとする。成員の日本語力が高い場合でも、成員本人の日本社会との関係性が強くない場合、あるいは配偶者が同国人の場合、成員本人とエスニック・コミュニティとのつながりも強くなる。この場合、エスニック・コミュニティが友人の多くを提供し、生活やあるいは娯楽の中心がエスニック・コミュニティとのつながりの中に置かれることになる。

成員の日本語力も高く、日本社会との関係性が強いにも関わらず、コミュニティに積極的に関わっている場合がある。その場合は、アイデンティティの継承、あるいは自身がコミュニティにおいてリーダーシップを発揮できる場であるなどの場合は、情報、社会関係資本が提供されるのではなく、自尊感情など本人のアイデンティティにかかわる部分がされることもある。関わりを持とうとする場合がある。

4 結論

以上から、日本語力の高い場合でも日本との接点の有無が、エスニック・コミュニティとの関係性に影響をもたらし、またコミュニティから積極的に資源を得ようとする、また関係性も変化する。移民の二世・三世が増える中、日本語力高いうえに、コミュニティとの積極的な関係を築くパターンの適応のあり方をより深く考察する必要があるように思われる。そのほか、ジェンダーやそのほかの属性からも分析を進めたい。

文献

A. ポルテス, R. ルンバウト, 2014, 『現代アメリカ移民第二世代の研究の研究』明石書店